

授業科目名	日本語表現	教員名	田上 幸雅 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択必修
					小学校教諭	選択
科目番号	JIN105	配当年次	1年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択必修
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	選択
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語への関心を高め、日本語の特色を理解する。【日本語への関心・理解】 さまざまな表現方法を理解し、自分の考えや心情を表現できる。【表現方法の修得】 自分の生き方や社会との関わりに関心を持ち、よりよい生き方を探求する。【生き方の探求】 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 話題や題材に応じて、情報を分析しつつ、自分の考えを深めることができる。 相手の立場や自分とは異なる考えを尊重し、討論の中で、論拠の妥当性を判断できる。 論理の構成や描写の仕方などを工夫して表現できる。 日本語におけるさまざまな表現法を習得し、効果的に話したり書いたりできる。 言語文化に対する関心を持ち、それらを尊重しつつ視野を広げる。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>価値観の多様化する現代において、言語環境は大きく変容しているが、その中であって、論理的思考力や創造力、それを表現する力が必要不可欠である。本授業では、日本語で適切かつ効果的に表現する能力の育成をめざし、ディスカッションやディベートを通して相互理解を深めることを目標とする。</p> <p>また、担当教員の学校現場での実務経験を踏まえ、発問の工夫や対話的な学びを重視した指導、ブックトーク等の実践的な言語活動を取り入れる。</p> <p>内容は、ディベート、ビブリオバトル、文章の書き方講座などであり、プレゼンテーションや相互評価・自己評価を通して、日本語への関心を高めるとともに、表現することの意義を考えさせる。</p>					
履修条件・注意事項						
授業計画	<p>第1回：授業概要説明 「表現」の意義について (目標(1)(5))</p> <p>第2回：ことばと表現1 (目標(3)(4))</p> <p>第3回：ことばと表現2 (目標(3)(4))</p> <p>第4回：ディベート(チーム戦)の概要説明と創作活動、ディベート準備 (目標(1)(2)(4))</p> <p>第5回：ディベートおよび相互評価① (目標(1)(2)(3))</p> <p>第6回：ディベートおよび相互評価② (目標(1)(2)(3))</p> <p>第7回：ビブリオバトルの概要説明(読書とスピーチ)および準備 (目標(1)(5))</p> <p>第8回：ビブリオバトル実践およびディスカッション① (目標(2)(3)(5))</p> <p>第9回：ビブリオバトル実践およびディスカッション② (目標(2)(3)(5))</p> <p>第10回：文章講座①文章要約問題および意見文の書き方と実践 (目標(1)(3)(5))</p> <p>第11回：文章講座②文章要約問題および意見文の相互評価、発表 (目標(2)(4))</p> <p>第12回：文章講座③論作文の書き方と実践 (目標(1)(3)(5))</p> <p>第13回：文章講座④論作文の相互評価、発表 (目標(2)(4))</p> <p>第14回：文章講座⑤エントリーシートの書き方と実践 (目標(1)(3)(4))</p> <p>第15回：「表現」に関するまとめ 「表現」の意義について (目標(1)(4)(5))</p> <p>定期試験</p>					
授業外学修時間の確保について	<p>講義における課題は、必ず指定された期日までに提出すること。また、ディベートや発表に向けた事前準備を十分に行うこと。さらに、授業外学修として、単元ごとに課されるレポートや振り返り課題に取り組み、継続的に学習を深めること。</p>					

学生に対する 評価	期末試験（40％）、レポート（30％）、発表（30％）を総合して評価する。成績評価は「成績評価のガイドライン」に基づき適切に行う。なお、レポート・答案等の提出物については、授業内での講評や口頭によるコメントに加え、必要に応じて個別にフィードバックを行い、学習到達度の確認と改善につなげる。
テキスト	米田明美・藏中さやか・山上登志美 大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版 風間書房 978-4-7599-1777-2
参考書・参考資料等	授業内容に応じて教員が作成した資料や参考教材を配布する。
担当者からの メッセージ	本授業では、主体的に考え、表現し、他者と対話する姿勢を重視する。討論や発表を中心とした授業であるため、事前準備を十分に行い、積極的に参加することを求める。また、互いの意見を尊重しながら建設的な議論を行う態度を大切にしてほしい。課題提出や授業外学修にも計画的に取り組むこと。
オフィスアワー	授業前後の時間。その他必要に応じて行う。
備考	担当教員は、中学校における国語科教員としての実務経験を活かし、ディベートや発表、文章指導等の言語活動に関する実践的な指導を行う。特に、児童・生徒の思考を引き出す発問の工夫や、対話的な学びを促す授業づくりの視点を取り入れた演習を行う。